

国指定名勝『三多気(みたけ)の桜』で景観まちづくり、本日、6回目の活動でした。今回は、今年度最後の活動で、4人の学生さんが参加してくれました。

活動は、津市主催の『景観講演会』に地域の方々と一緒に参加させていただきました。景観講演会には、景観保全会など地域の方々が約40名参加し、まずは、まち歩きからスタート。

まち歩きは、3班に分かれて視点場(ビューポイント)に立ち、三多気の景観の素晴らしさを再確認しました。学生さんも、7月から取り組んできた桜マップの作成や三多気の素晴らしさについて、“熱い思い”を語ってくれました。

まち歩きの後は、近畿大学の久教授による『基調講演』がありました。

『身近な景観づくりに取り組む』と題し、さまざまな事例紹介を組み合わせながら、「自分のまちを改めて考えてみる」「暮らしが、まちや景観をつくる」「大切にしたい資源やまちの将来像を共有する」「できることから、楽しく」などこれからの活動の“ヒント”が盛り沢山でした。

学生さんからは、「引き続き、活動に参加したい」「三多気は母親の実家の近くで、この活動との出会いに縁を感じる」「SNSで拡散するなど人を呼び込む仕掛けがあると良い」など活動で得た気づきを地域の方々に発信してくれました。

また、地域の方々からは、「若い人たちに教えてもらいたくて今日集まったので、とても良かった」など今後の活動の期待が高まる声もありました。

「三多気の桜」景観保全会の取組は、始まったばかりです。景観保全会の活動に学生さんが加わり、地域のさまざまな活動が有機的につながりつつあります。

4月14日、15日には『三多気の桜まつり』が開催されます。その後も、ヤマザクラの苗づくりイベントが企画されるなど、これからも「三多気の桜」の活動から目が離せません。



基調講演の様子



まち歩きの様子



学生さんの熱い思い